

発生・生殖生物学Essential版

科目責任者：川 瀬 撰（基盤教育部門（生物学））

I. 前文

すべての生物は、発生と生殖の繰り返しによって種を存続させてきた。本科目では、無脊椎動物（扁形動物、環形動物、軟体動物、節足動物、棘皮動物など）をもちいて、発生や生殖に関する実習をおこない、動物のいとなみの普遍性と多様性を学ぶ。また、それらの実習を通じて、比較動物学的な視点からヒトという存在について改めて考える。

II. 受入可能人数

8人程度

III. 担当教員

川 瀬 撰

IV. 学習内容

無脊椎動物（扁形動物、環形動物、軟体動物、節足動物、棘皮動物など）をもちいた実習により、動物の発生と生殖について学ぶ。本科目の内容は、人文自然選択「発生・生殖生物学」に似たものになると想定しているが、発生・生殖生物学を受講できなかった者、発生・生殖生物学と同じことに再挑戦したい者、発生・生殖生物学から派生した実験をおこないたい者など、多様な希望をもった者が参加できるように、内容を取捨選択したり、発展させたりする予定である。

V. 学修の到達目標

- ・動物の発生や生殖の普遍性と多様性を説明できる。
- ・ヒトの発生や生殖の一般性と特殊性を説明できる。

VI. 成績評価の方法・基準

受講態度、各実習についての簡易レポート、まとめのレポート

VII. 使用する教材・資料など

特になし

VIII. 質問への対応方法

質問は生物学実験室（医学部教室棟3階A314）において随時受け付ける。不在の場合もあるため、事前にアポイントをとること。電話（直通）：0282-87-2118、内線：2071、E-mail：osamuk@dokkyomed.ac.jp

IX. 求められる事前学習、事後学習*（ ）内は所要時間の目安

事後学習（20分）：実習でもちいた動物とヒトの生殖様式の相違をまとめる。

X. コアカリ記号・番号

A-2-2)

- ①講義、国内外の教科書・論文、検索情報等の内容について、重要事項や問題点を抽出できる。
- ②得られた情報を統合し、客観的・批判的に整理して自分の考えを分かりやすく表現できる。
- ③実験・実習の内容を決められた様式に従って文書を口頭で発表できる。
- ⑤各自の興味に応じて選択制カリキュラム（医学研究等）に参加する。

A-9-1)

- ①生涯学習の重要性を理解できる。
- ②生涯にわたる継続的学習に必要な情報を収集できる。

C-1-2)

- ①進化の基本的な考え方を説明できる。
- ②生物種とその系統関係を概説できる。

XI. 課題（試験やレポート）に対するフィードバックの方法

授業時間中にレポートについて解説する。

XII. 卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

*◎：最も重点を置くDP ○：重点を置くDP

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）		
医学知識	人体の構造と機能、種々の疾患の原因や病態などに関する正しい知識に基づいて臨床推論を行い、他者に説明することができる。	
	種々の疾患の診断や治療、予防について原理や特徴を含めて理解し、他者に説明することができる。	
臨床能力	卒後臨床研修において求められる診療技能を身に付け、正しく実践することができる。	
	医療安全や感染防止に配慮した診療を実践することができる。	
プロフェッショナリズム	医師としての良識と倫理観を身に付け、患者やその家族に対して誠意と思いやりのある医療を実践することができる。	
	医師としてのコミュニケーション能力と協調性を身に付け、患者やその家族、あるいは他の医療従事者と適切な人間関係を構築することができる。	
能動的学修能力	医師としての内発的モチベーションに基づいて自己研鑽や生涯学習に努めることができる。	○
	書籍や種々の資料、情報通信技術（ICT）などの利用法を理解し、自らの学修に活用することができる。	○
リサーチ・マインド	最新の医学情報や医療技術に関心を持ち、専門的議論に参加することができる。	
	自らも医学や医療の進歩に寄与しようとする意欲を持ち、実践することができる。	
社会的視野	保健医療行政の動向や医師に対する社会ニーズを理解し、自らの行動に反映させることができる。	
	医学や医療をグローバルな視点で捉える国際性を身に付け、自らの行動に反映させることができる。	
人間性	医師に求められる幅広い教養を身に付け、他者との関係においてそれを活かすことができる。	◎
	多様な価値観に対応できる豊かな人間性を身に付け、他者との関係においてそれを活かすことができる。	◎